

講義名	高齢者心理学			授業形態	
担当教員	松井 智子	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

私たちは皆「老いと死」を避けることはできない。加齢に伴い、私たちは機能の喪失や、病気などを体験する。これらは、ネガティブなイメージを人々にもたらすであろう。その一方で、高齢者心理学や近接する学問領域では、これらのポジティブな側面に関しても知見が蓄積されている。日本の高齢化率は28.9%（令和3年10月）であり、今後上昇が見込まれている。本講義では、日本における高齢社会の状況や、高齢者の心理的側面、そして高齢者を支える人々について多角的に学ぶことを通じて、高齢社会を適応的に生きることについて考えたい。

到達目標

高齢社会の特徴、高齢期における心理的側面の特徴、高齢者支援に関する現状に関して、多様な視点から理解し、説明できるようになる。

提出課題

何らかの課題(レポートなど)の提出を指示する。課題内容は、授業時、講義連絡等で指示する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出された課題や感想のうち、全体で共有することが望ましい回答については、授業時に紹介する。

評価の基準

授業時における態度が30%、課題への回答が70%である。

履修にあたっての注意・助言他

授業時に、感想や課題の提出を求める。それらの提出をもって出席とすることがある。

教科書

参考図書

.よくわかる高齢者心理学.	佐藤真一 権藤恭之(編集)	ミネルヴァ書房	2750	4623076555
.高齢者心理学.	権藤恭之編著	朝倉書店	3960	425452675X
.心理老年学と臨床死生学:心理学の視点から考える老いと死 .	佐藤真一編集	ミネルヴァ書房	4620	4623093212

その他

・授業時に参考資料を適宜配布する。

授業計画

1. リエンテーション・高齢社会の特徴
授業ガイダンスを行う。本講義の概要について説明する。
高齢者や高齢社会の特徴について概説する。
2. 生物学的加齢
人の加齢について生物学的な側面から概説する。
3. 心理・社会的加齢 1
人の加齢について心理・社会的な側面から概説する。
キーワード: 主観的年齢、エイジズム、社会的加齢理論
4. 心理・社会的加齢 2
人の加齢について心理・社会的な側面から概説する。
キーワード: サクセスフルエイジング、心理学的加齢理論
5. 高齢期における知能・記憶
高齢期における認知、知能・記憶の特徴について概説する。
6. 高齢期における感情
高齢期における感情の特徴について概説する。
7. 高齢期における性格特性
高齢期における性格特性の特徴について概説する。
8. 高齢期の社会関係
高齢期における社会関係の特徴について概説する。
9. 高齢者のメンタルヘルスマネジメント
高齢期に特異的なメンタルヘルスに関する問題やケアについて概説する。
10. 病に伴う心理的变化 1
がん患者の心理ケアについて、特に終末期に関する内容や、ポジティブな側面に焦点をあてて概説する。
11. 病に伴う心理的变化 2
高齢期における死と死別について概説する。
12. 認知症高齢者を支える家族の心理

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

参考図書を読んだり前回の授業内容を確認するなど、1授業に対して2時間程度予習をすることが望ましい。授業後は、講義資料を確認し、講義内容をノートにまとめるなど、復習を1授業に対して2時間程度行うことが望ましい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本における高齢社会の状況や、高齢者の心理的側面、そして高齢者を支える人々について多角的に学ぶことで、「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」ことに寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Googleフォームを使って課題や感想の提出や理解度確認を行うことがある。

実務経験の有無及び活用

備考

授業の内容や進め方は状況や受講生の理解度に応じて変更する可能性がある。